

令和7年度第1回和光市児童発達支援施策推進協議会 会議録（要録）

【日 時】 令和7年7月30日（水）15時30分～16時30分
【場 所】 和光市役所5階 502会議室
【出席者】 すこやかかわこう おやこサポートクリニック 理事長 勝又 大助（会長）
児童発達支援センターやまぼうしセンター長 小林 豊
子ども家庭支援課長 飯田 真子
障害福祉課長 三富 応樹
ネウボラ課長 堀江 和美
保育センター所長 沢田 潤子
教育支援センター長 隅田 浩文
【事務局】 子どもあんしん部長 平川 京子
子ども家庭支援課
富澤課長補佐、日野保健師、秋山主事補

【議 事】

1. 5歳児健診の実施状況等

（1）堀江委員説明（資料1参照）

（2）質問・意見等

勝又会長

和光市は近隣4市に先駆けて5歳児健診を行っている。そもそも、5歳児健診を行う国の目的は何か。就学前の発達のグレーゾーンにあたる人々のスクリーニングか。

堀江委員

就学前の発達のグレーゾーンにあたる人々のスクリーニングである。

事務局

国の目的については、参考資料2の最後のページにも記載されている。

勝又会長

1歳半、3歳児健診で発達障害をスクリーニングできと思っていたが、健診で指摘されない理由は何か。また、1歳半、3歳児健診で発達について指摘された児は適切にフォローされているのか。フォローされた後、解決となるのかも含めてお尋ねしたい。

堀江委員

現在、5歳児健診では、以前の健診で何か指摘されたか、という質問項目がある。その質問項目を確認すると、5歳児健診で初めて指摘されたケースも多い、ということが分かった。5歳児健診は、集団生活のなかで求められる「座っていられるか、人の話を聞けるか」等、社会性の発達を見ている。その視点でこどもたちを見ると、5歳児健診で初めて発達について指摘されるというケースも多くなるのだと思われる。

勝又会長

5歳児健診では、既に療育や医療につながっているケースを除いた、約3割の児がグレーゾーンと思われる。その人数とひまわり教室に通った人数を比べた際、ひまわり教室の人数が少ないのはなぜか。また、ひまわり教室に通うことの効果についてお尋ねしたい。

堀江委員

少ない理由としては、集団に所属しているため時間の確保が難しいという点が挙げられる。ひまわり教室に通ったことによる効果については、沢田委員にお尋ねしたい。

沢田委員

月1回かつ計5回までしかひまわり教室に通うことができないため、そのなかで効果の検証は難しいと思っている。ただし、こどもたちが初めて来た場所で他のこどもたちと関わり、自己を発揮できるというのは良い経験になっていると感じている。

勝又会長

ひまわり教室から療育を勧めるというケースもあるのか。

堀江委員

その通り。

勝又会長

5歳児健診で医師が療育の意見書や専門医への紹介状を作成するため、健診時に医師の時間が多く取られるのか。

堀江委員

医師の稼働は1時間程である。療育の紹介と心理相談を勧めることまでは医師が行い、その後、心理相談で更に話を聞き、次の月に医師に意見書を書いていただいている。

勝又会長

誘導役のようなかたちか。

堀江委員

その通り。

沢田委員

勝又会長よりご質問があったひまわり教室の効果については、保健師による保護者に対するこどもへの関わり方の指導は、有意義であると考えます。

隅田委員

保護者から、半年から1年程療育に通ってかなり成長したという話を聞く。就学相談では、10月から11月中旬までを目途に、就学先の最終的な判断を保護者が行うため、必要なこどもには、早めに療育につなげることが重要と考える。5歳児健診の早生まれのこどもたち等は、療育につながるのが遅くなってしまうのではないかと。早めるような方策等はあるのか。

堀江委員

4歳半から受けられると周知している。気になる児は、誕生月ではなく、早めに健診を受けられる仕組みがあってもよいのではと思った。

勝又会長

親の意識は高まっているのか。

堀江委員

その通り。発達障害への認識が変わってきていると感じている。

飯田委員

ひまわり教室は心理相談の心理士から繋いでいるのか。心理相談に繋ぐのは、当日の診察の医師からしか繋げないのか。

堀江委員

ひまわり教室は心理士からである。心理相談は保健師の問診からも繋ぐことがある。

飯田委員

ひまわり教室の人数が少ないため、参加のハードルが高いのではと思った。ひまわり教室の参加にあたっては、心理相談の心理士の判断が必要ということか。

堀江委員

現在、ひまわり教室を紹介できるのは、心理相談の心理士のみである。健診を始めて1年経過し、もっと多くひまわり教室を紹介するようにしてもよいのかもしれない。

飯田委員

ひまわり教室の当日の内容は保育センターが検討しているのか。

沢田委員

内容は、保育センターで作成し、保健師が確認している。

飯田委員

当日のメニューを考える上で悩むことはあるか。

沢田委員

実施前にシャインキッズの井上先生にご助言をいただいた。また、昨年度ひまわり教室を視察していただき、助言していただいた。

飯田委員

児童発達支援センターやまぼうしもひまわり教室を見学したと思うが、当日の内容等について何か意見はあるか。

小林委員

ひまわり教室を見学し、非常に勉強になった。やまぼうしとしては、OT・児発管等を派遣するという検討は可能。

やまぼうしでは、健診から療育につながっているケースもあり、健診が機能していると思う。就学に向けた準備クラスの開始も検討中で、ひまわり教室との住み分けをして、保護者に関わっていきたい。就学後もやまぼうしに頼っていただけるような流れができればよいと考えている。

事務局

保護者の意識の高まりについて補足。市でこどもに関わる計画を作成していくなかで、H25～R5 にかけて調査を行った。そのなかで、子育てについて悩んでいることという項目で「発育・発達・療育に関すること」について H25 年度は 46% だったのに対し、R6 年度は 67% となっており、約 1.5 倍である。その他の相談事業についても、ここ 10 年程度でこどもの数が減っているにも関わらず、相談件数は 1.5～1.8 倍となっている。保護者の意識の高まり、変化を感じる。

勝又会長

就学後のデータが欲しい。特に、5 歳児健診が開始前と開始後で、就学後の変化があるかを聞きたい。

2. 令和 7 年度和光市児童発達支援センターやまぼうしの運営方針について

(1) 小林委員説明（資料 2 参照）

(2) 質問・意見等

勝又会長

すこやかかわこうの診療に 1 人あたり約 30 分時間がかかっている。療育については、やまぼうしに相談できる体制にしたい。

小林委員

方法を検討して、児童発達支援センターとして行っていきたい。

3. その他

(1) パンフレットについて (資料3)

事務局

パンフレットを HP に掲載した。内容変更がある際は、子ども家庭支援課に連絡してほしい。

(2) 発達支援マネージャー研修について (追加資料：発達支援マネージャー育成研修の概要)

三富委員

発達障害に関わる地域の中核を担う人材育成を行うための研修である。希望があったら、障害福祉課に連絡してほしい。

(3) 次回協議会の議題について

事務局

11月19日(水) 15時から予定している。議題について委員から提案はあるか。

飯田委員 (追加資料：市長公約)

市長公約の一部に、運動療育があげられている。市全体の児童発達施策の協議として、発達に課題がある就学前の児童に対し、運動療法の視点を取り入れた支援や、不登校児童にならないような就学前の支援について、次回協議会の議題に加えたい。

(4) 2か月児チェックについて (参考資料3参照)

勝又会長

2か月児チェックの目的は早期発見、早期支援と、保護者が適切に育児できるよう支援すること。課題は受診者数が低いことである。